

刈り遅れに注意！適期収穫で品質向上！

- 梅雨明け以降、非常に気温が高い状態が続いており、
水稻の出穂期は昨年と同様に早まっています。
- 今後も高温で推移する見込みで、成熟期も早まることが予想されるため、早めにほ場を確認し、適期収穫を行いましょう。



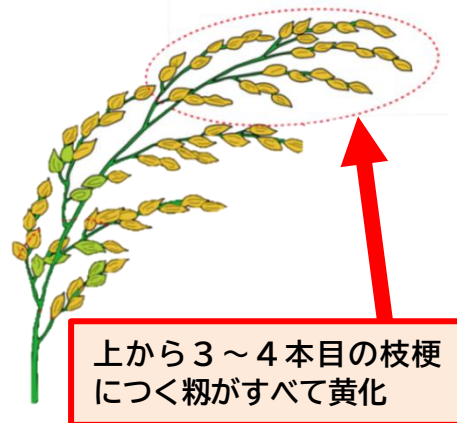
今年の水稲の登熟の様子(東近江市内/コシヒカリ/8月6日撮影)

水稻の生育が平年よりも早く進み、登熟のバラツキが大きくなります。また、穂先と穂元の熟期の差が大きくなることが予想されます。穂元の登熟を待つと刈り遅れになるため注意しましょう。早めの収穫・調製の準備をお願いします。



1 収穫判断の目安

- ・収穫適期は穂の上から3～4本目の枝梗につく籾がすべて黄化した頃で、**籾黄化率85～90%**です。
- ・収穫時期が近づいたらほ場に入って、**籾の黄化を確認しましょう**。
- ・気温が高く推移すると登熟日数は短くなります。**出穂後30日を過ぎたら**いつでも収穫できるよう準備しましょう。



高温が続いた場合の早生品種の成熟期の目安

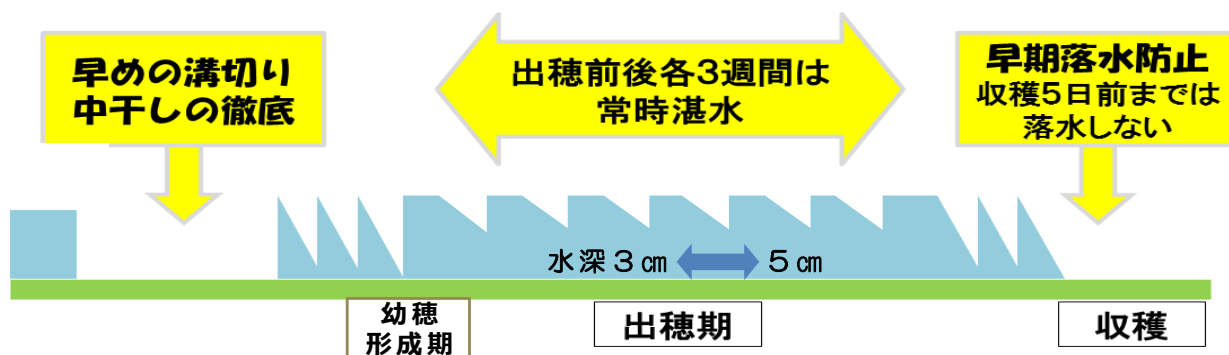
出穂期	7月20日	7月25日	7月30日	8月5日
成熟期の目安	8月22日	8月27日	9月1日	9月7日

※出穂期は出穂すると思われる全茎数の40～50%が出穂した日。

※成熟期（目安）は日平均気温（東近江アメダス）の積算温度が950℃を超えた日。
ただし、8月7日以降は平成3年から令和2年の平均値に3℃を足した値。

2 収穫までの水管理

- ・**落水時期の目安は収穫5日前**です。早期落水は登熟悪化、品質低下につながります。
- ・本年は高温少雨が長く継続しており、**十分に湛水できておらず、水不足となっているほ場が散見されます**。ほ場条件に応じて、収穫作業に支障のない範囲で落水時期を遅らせて、**生育終盤まで稲の活力を維持させましょう**。



※「中干し」は幼穂形成期までに終了しましょう。



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ②こまめな休憩と水分補給
- ③単独作業を避ける
- ④熱中症対策アイテムの活用